



大石 玄（法学）

「おおかみこどもの花の家」に来られ

富山県内にはアニメやマンガの舞台となった場所がいくつもあります。私が講義を担当しているのは「労働法」「知的財産法」「憲法」という法律系科目なのですが、演習科目（トピックゼミ）では方向性を変えて「アニメとマンガで地域を学ぶ」というテーマを掲げています。全国どころか世界中に点在する《ご当地アニメ》や《ご当地マンガ》を探しだし、作品の中に描かれた空間を観察することで各地の魅力を発掘しよう！という試みです。

このゼミで毎回、富山県を代表する作品として話題に取り上げているのが『おおかみこどもの雨と雪』（スタジオ地図製作、2012）です。この作品で監督を努め、原作も手がけていた細田守（ほそだ・まもる）さんは富山県上市町（かみいちまち）のご出身。古い家を探してロケハンをしていた細田監督が立山の周辺を探していたところ、偶然見つけたのが縁で映画に登場することになりました。

上市町は富山市から東へ約15kmの場所にあり、富山地方鉄道で結ばれています。駅からは1日5本ほど運行されているコミュニティバスに乗り、終点の大岩へ。ここには、岩を掘り出した磨崖仏の不動明王をご本尊とする大岩山日石寺（にっせきじ）、岩の合間を水が流れ落ちて清々しい千巖溪（せんがんけい）、そして、富山では夏の風物になっている「大岩そうめん」が味わえる店があり、ちょっとした観光名所になっています。

しかし、今回の目的地はさらにその先。日石寺の境内へ続く階段の隣に、自動車なら登るのをためらうような急坂に挑みます。途中、枝分かれが2か所あって「迷ったかも？」と心配になってしまう山道ですが、左へ、左へと30分ほどかけて進んでいくと、そこに映画の世界そのままの古民家「おおかみこどもの花の家」がたたずんでいます。

この家、明治20（1887）年には建てたという記録があるので、おそらく築140年は超えています。この家で暮らしていた山崎正男さんが亡くなられたのは約20年前。ただ、この正男さん、家の近くから山頂へと繋がる登山道を切り拓いておられたそうで、人が住まなくなっても家を休憩所として開放していました。そこへ迷い込んできたのが細田守監督で、即座



に映画へ登場させる古民家のモデルとすることが決まったのだとか。

この家は、映画の公開から10年以上経った今でも年間1万人近くが訪れています。映画を見た人なら、作品に登場した様々な場面を思い起こすことのできるものをあちこちに見つけ出すことができますから、どれだけ丹念にロケハンしてアニメが作られていったのを理解する手がかりが得られることでしょう。

このお家はNPO（特定非営利活動法人）が管理を担っております（かくいう私も、そのメンバーの一人です）。週末や祝日には雨戸を開けて、遊びにいらした方をお迎えしております。猛暑の夏や雪の積もる冬に歩いて登ってくるのはオススメできませんが、春や秋にハイキングのつもりでいらしてみてもいかがですか？ 縁側に腰掛け、ぼ〜っと庭を眺める穏やかな時間を楽しんでみてください。「花の家」に来られ。

※ 「来られ」は富山弁で「来てみてくださいね」の意

おおかみこどもの花の家

<https://ookamikodomonohananoie.jp/>